

定期検査における検査項目、方法、判定基準

(1) 性能評価の条件となる装置・部品の検査方法

部品名	定期検査項目	検査内容	判定基準
巻上機	油漏れ	<ul style="list-style-type: none"> ・制動面への油の付着はないか ・オイル排出口からの油漏れはないか 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記に油がないこと
エプロン	外観、長さ	<ul style="list-style-type: none"> ・破損していないか ・著しい変形はないか ・長さが規定寸法通りか 	<ul style="list-style-type: none"> ・破損していないこと ・著しい変形がないこと ・875mm以上であること

(2) 性能評価範囲の装置・部品の検査の方法

部品名	定期検査項目	検査内容	判定基準
ブレーキ	パッド厚み	・アーマチュア1とアーマチュア2の隙間寸法の測定	・すき間寸法が規定値以下であること。(注2)
	制動力	・片側もしくは両側ブレーキによるぬ負荷上昇(微速)時のかご制止距離測定	<ul style="list-style-type: none"> ・規定距離(700mm)以内に停止すること、年次変化量が規定値(150mm)以内であること ・スナップリングが所定の場所に付いているのを確認
	トルク	・両側ブレーキが作動している状態でのブレーキトルク 検出部の測定動作チェック	・規定値以上のトルクがあることを確認する(注3)
ブレーキパッドの動作感知装置	動作確認	・開放、締結時の接点信号	・ブレーキの開閉と接点の開閉が所定の位置で行われること
	寿命確認		・動作カウンターで300万回以内
特定距離感知装置	動作位置	・動作位置の測定	・着床±75mmで動作すること
	寿命確認		・設置後15年以内
安全制御プログラム	形式	・安全制御プログラムが搭載されたPLCの型式チェック	・大臣認定を受けたものと同じであること
	動作確認	<ul style="list-style-type: none"> ・ドアゾーン外での戸開走行 ・状態模擬試験実施 	・戸開走行保護装置が作動し、電動機およびブレーキの励磁コイルが電源から遮断されること
	寿命確認		・設置後10年以内

(注1) 上記(1)、(2)以外は平成20年国土交通省告示283号による

(注2) すき間寸法の規定値aは、別表による

(注3) ブレーキトルクの規定値は別表による

(3)UCMPを構成する各装置の点検方法・交換基準を以下のように定めます

名称	検査項目		検査方法	判定基準(注1)
電磁接触器 (S1 S2 BD MD)	S1 S2 MD	動作・接点状態	目視	良否
		寿命	Sカウンタ読取または年数	100万回以下 または10年以下
	BD	動作・接点状態	目視	良否
		寿命	BDカウンタ読取または年数	100万回以下 または10年以下
かご戸感知装置	動作・接点状態		目視	良否
	スイッチの全閉 位置からの距離	2D 3S CO 2CO	測定	25mm以下
		2U 3U	測定	50mm以下
	寿命		年数	15年以下
各階乗場のドアイ ンターロックスイ ッチ	動作・接点状態		目視	良否
	寿命		年数	15年以下
	戸閉時フックのかかり代		測定	7mm以上
特定距離感知装置	スイッチDZ1	動作	目視	良否
		寿命	年数	15年以下
	スイッチDZ2	動作	目視	良否
		寿命	年数	15年以下
巻上機	ブレーキ	ディスクパッドの摩耗	すき間 a の測定(全集数か所	規定値以下(注2)
		油汚損の状態	目視	オイルパン内 の油の有無
		トルク	トルクレンチによる測定	規定値以上(注3)
	ブレーキ動作感知 スイッチLS1	取付状態	緩みがないか及び動作位置 をすき間ゲージで確認する	0.25±0.05mmの 範囲でON確認
		寿命	BDカウンタ読取	300万回以下
	ブレーキ動作感知 スイッチLS2	取付状態	緩みがないか及び動作位置 をすき間ゲージで確認する	0.3±0.05mmの 範囲でON確認
		寿命	BDカウンタ読取	300万回以下
	かごつま先保護板	形状・支持		目視
システムの 機能検査(注4)	S1 S2 MD	動作	目視	良否
	ブレーキ	動作	かごの停止確認	良否

(注1)各機器の内、寿命に達するものは、それ以前に交換する

(注2)すき間寸法の規定値aは、別表による

(注3)ブレーキトルクの規定値は別表による

(注4)ドアゾーン外において、保守員による低速専用運転中に乗場戸の錠(インターロックスイッチ)
を開錠して確認する

認定番号

ENNNUN-0416 RM1

ENNNUN-0343 RM2

ENNNUN-0481 RM3

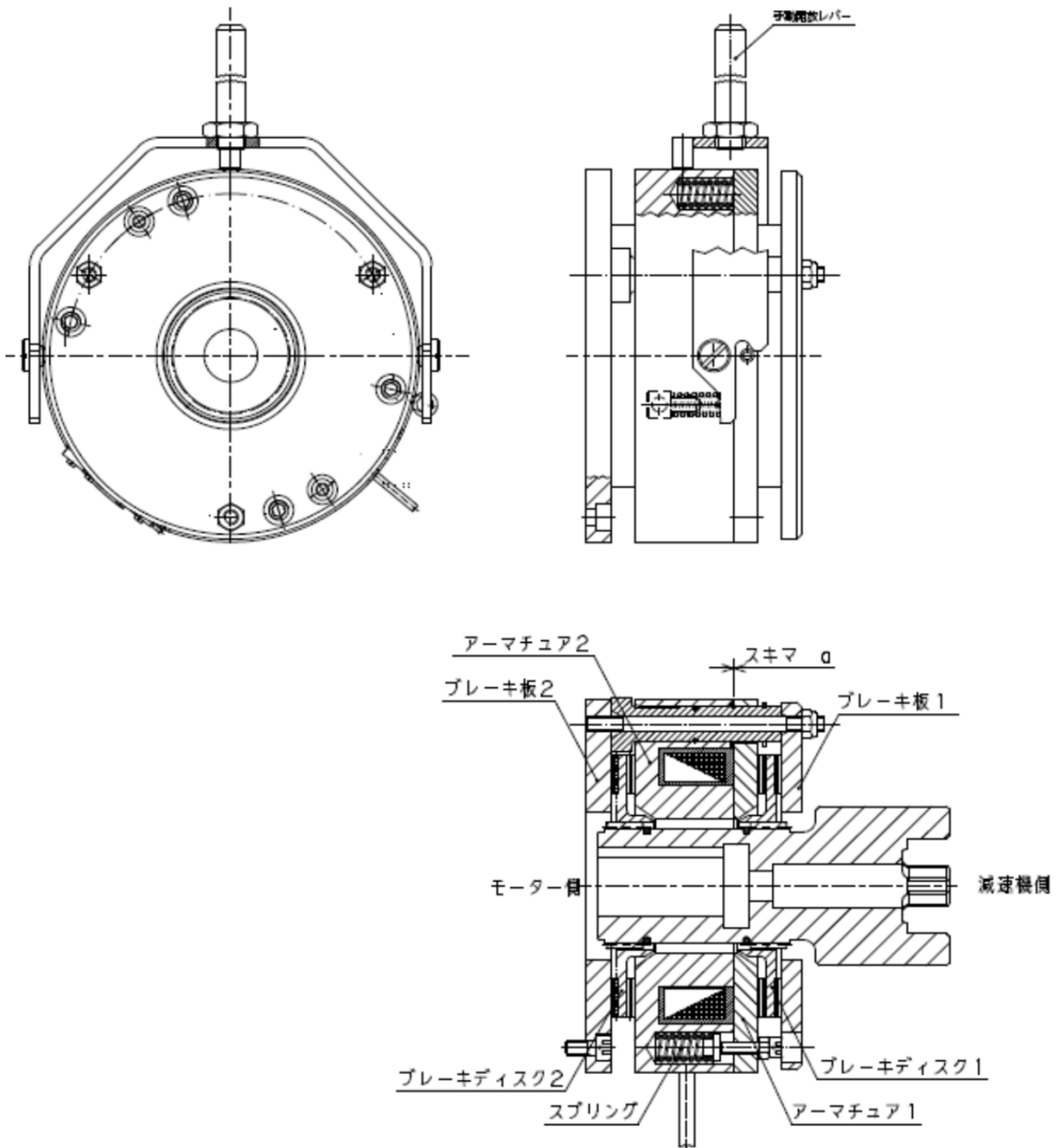
ENNNUN-0482 RM4

ENNNUN-0483 RS6

ENNNUN-0484 RS8

ENNNUN-0485 RS10

1.各部の名称



2.ブレーキディスク(パッド)の摩耗限界

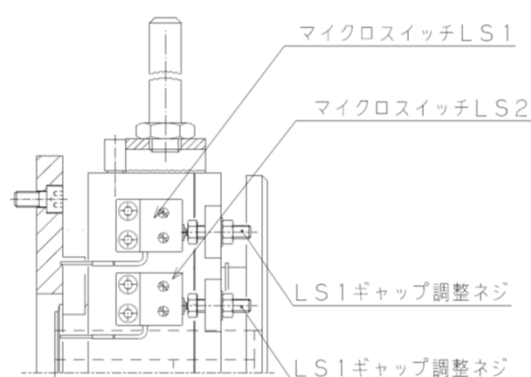
ブレーキが作動している状態で、隙間 a を全周の数か所で測定する。

ブレーキディスク(パッド)の摩耗限界

機種	初期すき間 a (mm)	要充填点検 a (mm)	要是正 a (mm)
RM 1型	0.5	0.9	1.0
RM 2型	0.6	1.0	1.1
RM 3型	0.6	1.0	1.1
RM 4型	0.7	1.3	1.4
RS 6型	0.7	1.3	1.4
RS 8型	0.7	1.3	1.4
RS10型	0.8	1.4	1.6

3.ブレーキ動作感知スイッチLS1,LS2の調整

シックネスゲージを用いて、動作位置をLS1,LS2の規定値に合わせる。



4.ブレーキトルク検査

両側ブレーキが作動している状態でのブレーキトルクをモーター後部の軸にスパナ形トルクレンチを用いて、下表の判定基準値以上のブレーキトルクが確保されていることを確認する。

測定値には、かごと釣合おもりのアンバランストルク、主索重量によるアンバランストルク、及び減速機の効率が含まれているため、それをけいさんにより考慮した値で比較する。

ブレーキトルク値

機種	ブレーキ型式	判定基準値
RM 1型	RSZ-60	63N・m以上
RM 2型	RSZ-250	200N・m以上
RM 3型	RSZ-250	261N・m以上
RM 4型	RSZ-500	396N・m以上
RS 6型	RSZ-500	486N・m以上
RS 8型	RSZ-500	486N・m以上
RS10型	RSZ-1000	720N・m以上

4.メインシーブロープ溝の摩耗限界

ロープ上面とメインシーブ上面の高さの違い h を測定し、規定値に達したら交換する。
 また、不均等な摩耗により、各ロープの h に1mm以上の差が生じた場合や
 目視でロープの条痕や編摩耗が生じた場合も同様とする。

メインシーブロープ溝の摩耗限界

機種	主索径(ϕ)(mm)	初期値 h (mm)	重点点検 δ (mm)	要是正 δ (mm)
RM 1型	10	3.5	1.5	0.5
RM 2型	12	4.5	2.5	1.5
RM 3型	14	4.0	2.0	1.0
RM 4型	16	4.0	2.0	1.0
RS 6型	16	4.0	2.0	1.0
RS 8型	18	4.0	2.0	1.0
RS10型	20	5.0	3.0	2.0

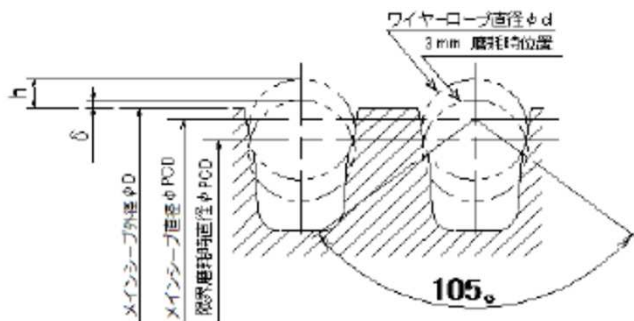


図7 : ロープ溝摩耗

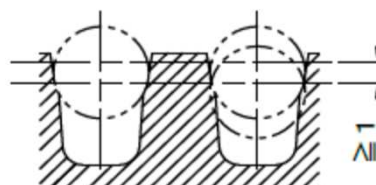


図8 : ロープ溝不均等摩耗